

# 福島県原子力災害に係る新潟県の対応について

平成23年 3月23日  
新潟県原子力安全対策課

## 1 放射線監視体制の強化

既設の柏崎刈羽周辺のモニタリングポスト11箇所に加え、可搬型モニタリングポストを県内6箇所を追加設置して、放射線の監視体制を強化しました。

- ①新潟市西区（放射線監視センター新潟分室）・・・3月12日～
- ②長岡市（長岡地域振興局）・・・・・・・・・・・・3月12日～
- ③阿賀町（新潟地域振興局津川地区振興事務所）・・・3月12日～
- ④南魚沼市（南魚沼地域振興局）・・・・・・・・・・・・3月15日～
- ⑤新発田市（新発田地域振興局）・・・・・・・・・・・・3月15日～
- ⑥上越市（上越地域振興局）・・・・・・・・・・・・3月15日～

これらの測定値は1時間ごとに報道発表するとともに、ホームページでお知らせしています。

## 2 放射線測定状況

### ○3月15日報道発表

南魚沼市において、15日17時頃から放射線の測定値が上昇しました。

（最大値15日19時：0.570 $\mu$ Sv）

この件について、新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員の新潟大学工学部今泉洋教授に確認していただき、以下のコメントをいただきました。

通常の値よりは、高い値となっていますが、健康上問題となるような値ではありません。今後の測定値を注視していくことが必要です。

### ○3月16日報道発表

15日17時頃から南魚沼市の放射線の測定値が上昇したことを踏まえ、大気中の放射性物質の詳細な分析を行ったところ、微量の放射性物質が検出されました。

#### 【主な検出核種】

- ・ヨウ素131 : 0.33Bq/m<sup>3</sup>
- ・ヨウ素133 : 0.032Bq/m<sup>3</sup>
- ・セシウム134 : 0.029Bq/m<sup>3</sup>
- ・セシウム137 : 0.031Bq/m<sup>3</sup>

この件について、新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員の新潟大学工学部今泉洋教授に確認していただき、以下のコメントをいただきました。

こうした、放射性核種は、原子力発電所の運転などに伴い発生する人工放射性核種ですが、通常原子炉内から外部に放出されることはありません。

柏崎刈羽原子力発電所周辺の測定結果に異常な変動は見られず、これらの放射性物質は柏崎刈羽原子力発電所からのものとは考えられないことから、福島県の原子力災害の影響を否定できません。

今回検出された放射能はごく微量であり、人の健康には全く影響のないレベルです。

## 3 県内に流通している農産物の放射能調査

厚生労働省の通達を受けて、3月18日から県内に流通している農産物について放射能調査を実施しています。

これまでの調査では、県外産地の農作物で微量の放射性物質が検出されましたが、いずれも暫定規制値を下回っています。

#### 4 県内で採取した河川水と水道水中の放射能調査

文部科学省の依頼を受けて、3月17日から県内の河川水、18日から県内の水道水について放射能調査を実施しています。

これまでの調査では、複数箇所において微量の放射性物質が検出されましたが、いずれも原子力安全委員会が定めた飲食物摂取制限に関する指標値を下回っています。

#### 5 県内で搾乳された原乳の放射能調査

厚生労働省の通達を受けて、3月20日から県内で搾乳された原乳について放射能調査を実施しています。

これまでの調査では、放射性物質は検出されていません。

#### 6 被災地からの避難者の受け入れ体制

##### ○3月14日報道発表

福島第一原子力発電所の避難区域にいた方で、放射性物質の付着を心配される方に対し、放射性物質の付着の有無の確認を受けることができる体制を整えました。

- ①新発田地域振興局健康福祉環境部・・・3月14日～
- ②長岡地域振興局健康福祉環境部・・・3月14日～
- ③上越地域振興局健康福祉環境部・・・3月14日～

##### ○3月17日報道発表

健康上の不安や今後の生活等に関する相談所を用意しました。（相談所では放射性物質付着の確認を受けることができます。）

- ①新潟県立阿賀黎明高校（阿賀町）・・・・・・・3月17日～3月22日
- ②旧阿賀野市立大和小学校（阿賀野市）・・・・・・・3月15日～3月22日
- ③東北電力ビッグスワンスタジアム（新潟市）・・・3月17日～

※放射性物質付着の確認は新潟テルサで実施

#### 7 福島県に派遣した放射線モニタリング業務要員の被ばく

##### ○3月13日報道発表

福島第一及び第二原子力発電所周辺の放射線モニタリング業務を援助するため、新潟県から派遣していた要員のうち、避難区域内（発電所から半径20km圏内）に立ち入った県職員2名（放射線測定要員）から微量の被ばくが確認されました。

被ばくのレベルは約0.1ミリシーベルトで、健康には影響はありません。

（胃のX線集団検診1回での被ばく量は0.6ミリシーベルトです。）

#### 8 柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について

##### ○3月20日報道発表

柏崎刈羽原子力発電所の安全対策の見直しについて、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長の連名で、東京電力の清水社長あてに、申し入れを行いました。

この度の貴社福島第一、第二原子力発電所における、想定を超える津波等による水素爆発や放射性物質の漏えい等の原子力災害を踏まえ、住民の不安はかつてなく高まっています。

については、柏崎刈羽原子力発電所に関して、現状の安全対策等について抜本的に見直しを行い、万全の対応をとることを求めます。